

2024年東京都知事選挙における報道の比較

—非主流候補を巡る言説の分析—

○梶山佑 (Yu KAJIYAMA)、山本竜大 (Tatsuhiko YAMAMOTO)

Keywords : 政治とメディア、ポピュリズム、ミドルメディア、計量テキスト分析

1 目的

2024年7月7日に実施された東京都知事選は過去最多の56人が出馬し、既存政党との距離を強調した候補者が躍進する現象が起きた。近年、欧米を中心にソーシャルメディアを介して有権者の支持を得るポピュリスト政治家が台頭しているが、彼らに対して新聞やタブロイド紙などの既存メディアはそれぞれ、過少報道、否定的な評価、同調などとさまざまに反応をしている (Ettsetin et al., 2018)。本研究は、都知事選において、こうした新しいタイプの非主流候補者とメディア間のせめぎ合いがどのように展開されたかを計量テキスト分析を用いて明らかにする。

2 方法

本研究はまず、改革派や劇場型とみなされた日本の政治家や、欧米のポピュリスト政治家を巡る選挙報道を分析した国内外の先行研究を整理した。次に、都知事選前後に配信・放送された新聞記事(3紙、計388本)、ネットニュース(3媒体、664本)を収集した。候補者氏名の出現頻度の推移を視覚化し、統計的に有意な差があるかを検定した。また、文章を量的に把握するため形態素解析を行い、特定の候補者に言及する頻出語を明らかにし、対応分析を行った。

3 結果

候補者氏名の出現頻度の推移は、ネットニュースでは告示後、投開票日に向けて報道量が有意に増えており、新聞に先行して「旋風」が吹いたとみられる。一方で新聞は、告示後に各候補者の扱いが「均一」になり、その後の急激な変化はみられなかった。

頻出語分析では、新聞は3紙とも「政党」や「有権者」といった言葉が目立った。ネットニュースでは媒体によって傾向が異なり、「躍進」や「一躍」といった同調的な語彙がみられた一方で「批判」という語彙も目立ち、候補者や批評家の発言を頻繁に引用していた。

4 結論

ネットニュースは、SNS上の投稿を引用する記事が選挙報道を多様かつ流動的にし、候補者本人の発言を引用して同調する言説のほか、別の批評家のSNS投稿を引用して批判する議論がみられた。一方、新聞は「中立」や「不偏不党」といった報道規範の影響が色濃く、政治不信を抱える無党派層の支持、という選挙戦略に注目した記事を中心とした総花的な報道が展開されていた。

【主要参考文献】

Wettstein, M., Esser, F., Schulz, A., Wirz, D. S., & Wirth, W. (2018). News Media as Gatekeepers, Critics, and Initiators of Populist Communication: How Journalists in Ten Countries Deal with the Populist Challenge. *International Journal of Press/Politics*, 23(4), 476–495.